

# 第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0701002

政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載  児童ふれあい交流促進事業実施要綱
基本施策	8 子育て・子育ての充実	事業優先度	A	
単位施策	1 「子育て」支援の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	児童ふれあい交流促進事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	7 児童センター	
事業主体	雄武町	関係課	5 保健福祉課 12 教育委員会教育振興課	
事業指標	事業数、参加者数	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
事業目標	100回 2000人	関係例規・法令名	2 ⇒	
住民参加 住民協働	1 事業への参加	関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容	
計画 内容	年長児童赤ちゃん出会い・ふれあい・交流事業 読み聞かせ事業 巡回児童館事業 体力増進活動 行事体験活動	年長児童 赤ちゃん出会い・ふれあい・交流事業 読み聞かせ事業 巡回児童館事業 体力増進活動 行事体験活動	年長児童 赤ちゃん出会い・ふれあい・交流事業 読み聞かせ事業 巡回児童館事業 体力増進活動 行事体験活動	年長児童 赤ちゃん出会い・ふれあい・交流事業 読み聞かせ事業 巡回児童館事業 体力増進活動 行事体験活動 あいあい広場事業	年長児童 赤ちゃん出会い・ふれあい・交流事業 読み聞かせ事業 巡回児童館事業 体力増進活動 行事体験活動 あいあい広場事業	年長児童 赤ちゃん出会い・ふれあい・交流事業 読み聞かせ事業 巡回児童館事業 体力増進活動 行事体験活動 あいあい広場事業	
	事業費(千円)	6,000	1,200	1,200	1,200	1,200	
計画 事業費	財源内訳						
	国庫支出金	150				150	
	道支出金	1,200	400	400	400		
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	4,650	800	800	800	1,050	1,200	
実績 事業費	事業費(千円)	5,452	1,107	1,056	1,055	1,200	1,034
	財源内訳						
	国庫支出金	750			150		600
	道支出金	800	400	400			
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	3,902	707	656	905	600	1,034	
関連 事項	(特定財源の詳細等) ・児童ふれあい交流 促進事業補助金	【評価・実績】	(実施内容等) 年長児童 赤ちゃん出会い・ふれあい・交流事業 読み聞かせ事業 巡回児童館事業 体力増進活動 行事体験活動 (実績: 98回、2,094人) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 年長児童 赤ちゃん出会い・ふれあい・交流事業 読み聞かせ事業 巡回児童館事業 体力増進活動 行事体験活動 (実績: 101回、2,153人) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 年長児童 赤ちゃん出会い・ふれあい・交流事業 読み聞かせ事業 巡回児童館事業 体力増進活動 行事体験活動 (実績: 103回、2,033人) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 年長児童 赤ちゃん出会い・ふれあい・交流事業 読み聞かせ事業 巡回児童館事業 体力増進活動 行事体験活動 (実績: 100回、2,078人) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) 年長児童 赤ちゃん出会い・ふれあい・交流事業 読み聞かせ事業 巡回児童館事業 体力増進活動 行事体験活動 (実績: 100回、2,055人) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持
	第4期総合計画関連 (継続有り)	年度目標値	100回 2,000人	100回 2,000人	100回 2,000人	100回 2,000人	100回 2,000人
	年度達成率		92%	88%	88%	100%	86%
	全体達成率		18%	36%	54%	74%	91%
	事業進捗状況		☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆

事業名	児童ふれあい交流促進事業	評価者 管理職 職氏名	児童センター館長	豊田 通敏
		評価者 作成者 職氏名	児童センター係長	内藤 肇昭

平成24年度実施  
平成25年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	全ての児童、子育て中の親子	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	事業数・参加者数								
【抱える課題やニーズは】	子どもたちが安心して遊べる場所が減少している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	児童センターにおいて、健全な遊びを提供し、異年齢や地域の人との交流を通して、社会性、自主性、創造性を養う。	① 事業数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成24年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>100回</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>100回</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	平成24年度	目標値	100回	実績値	100回	達成度	100.0%
目標年度	平成24年度										
目標値	100回										
実績値	100回										
達成度	100.0%										
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	児童の魅力ある居場所となり健全育成が図られる。	② 参加者数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成24年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>2000人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>2055人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>102.8%</td></tr> </table>	目標年度	平成24年度	目標値	2000人	実績値	2055人	達成度	102.8%
目標年度	平成24年度										
目標値	2000人										
実績値	2055人										
達成度	102.8%										
【内容(どのような手段で何をを行ったか)】	<p>①行事体験活動 多種多様な行事を通して、幼児から高齢者まで幅広い世代交流を深め、体験活動をおこなった。</p> <p>②体力増進活動 数多くのスポーツ指導を行い、体力増進を図る。一輪車・サッカー教室等に積極的参加がある。</p> <p>③児童ふれあい交流促進事業 地域への遊びの出前、赤ちゃんふれあい体験、絵本読み聞かせなどを実施し、子どもたちの体験活動の幅を広げる。</p>										

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	子どもたちを取り巻く環境が変化する中、遊びの拠点となる地域の安全な居場所と交流を通じて地域全体が子育て支援を行う環境づくりが必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	子どもたちの交流の場となっており、事業へも積極的な参加がある。また、地域住民の方々も子ども達との交流を楽しみにされている。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	事業実施にあたっては地域団体との協賛やボランティアの協力により、様々な遊びや支援を効率的に提供できた。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

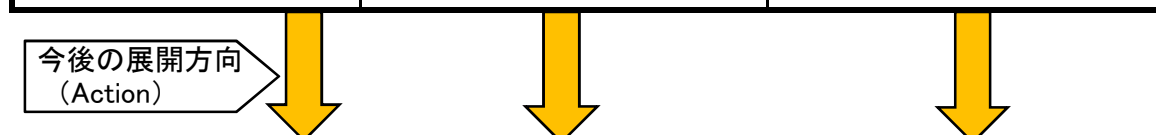
公平	判断の理由	町内全ての乳幼児・児童・中高生の利用が可能である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
地域の子ども達の遊びの拠点として重要な役割を果たしている。貴重な異年齢の交流の場として今後も事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
今後も魅力ある内容のプログラムを用意し、全町内の子どもたちや地域の方々にセンターを利用してもらう地域の交流の場となるよう事業を進める。		

※展開方向の区分  
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
 終了  休止  廃止